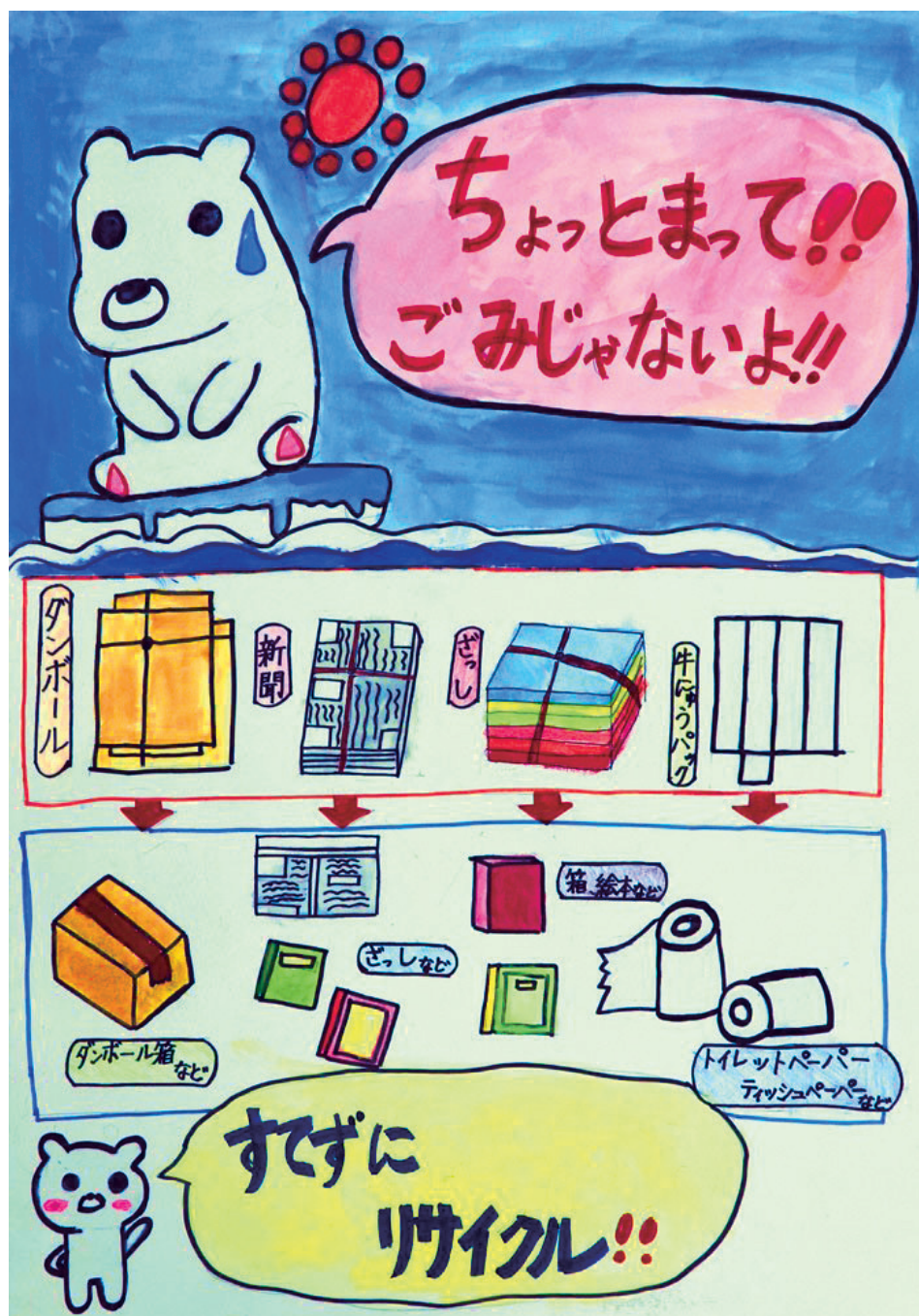


会報

公益財団法人古紙再生促進センター



第45巻第2号

4

2019

- ◆ 令和元年度 事業計画および収支予算書
- ◆ 紙リサイクル出前授業の下半期実施結果
- ◆ 古紙リサイクルバスツアー実施報告（九州地区委員会）
- ◆ ロウ引き段ボールの混入防止リーフレットについて



目 次

・ センターからのお知らせ	1
---------------------	---

理事会報告

・ 令和元年度 事業計画および収支予算書	2
----------------------------	---

活動報告

出前授業

・ 紙リサイクル出前授業の下半期実施結果	8
----------------------------	---

九州地区委員会

・ 古紙リサイクルバスツアー実施報告	12
--------------------------	----

海外情報

・ 第二十一回 夏先生のチャイナレポート	13
----------------------------	----

・ 韓国の古紙統計（2017 年）	15
-------------------------	----

センター日誌	22
--------------	----

お知らせ

・ ロウ引き段ボールの混入防止リーフレットについて	25
---------------------------------	----

（表紙）

全国小中学生“紙リサイクル”コンテスト 2018

ポスター小学生高学年部門 金賞作品

岩国市立灘小学校 4年 尾賀 穂花

タイトル「すてずにリサイクル」

センターからのお知らせ

〈速報〉

『文部科学大臣賞』新規交付の決定 ～全国小中学生“紙リサイクル”コンテスト2019～

今年度、11回目を迎える「全国小中学生“紙リサイクル”コンテスト2019」におきまして、作文部門とポスター部門の『文部科学大臣賞』の新規交付が決定しました。小学生・中学生からのたくさんのご応募をお待ちしております。

つきましては、お付き合いのある小学校・中学校、また、お知り合いの小学生、中学生への応募促進協力をお願い致します。詳しくは、募集チラシ（5月上旬頃作成予定）、当センターホームページ（5月上旬頃掲載予定）をご覧ください。



全国小中学生“紙リサイクル”コンテスト2018 表彰式



ポスター中学生部門
金賞受賞作品

事務連絡 センター新入職員のご紹介

当センター東北地区委員会の新入職員を紹介します。



- | | |
|---------|---|
| ①氏名 | 山本 洋一（やまもと よういち） |
| ②役職 | 東北地区委員会 事務局長 |
| ③生年月日 | 1954年12月22日 |
| ④入職年月 | 2019年4月1日 |
| ⑤略歴 | 日本製紙岩沼工場技術部門⇒安全環境部門 |
| ⑥一言コメント | 東北地区の課題に対し微力ですが取り組んでいきたいと
思います。宜しくお願い致します。 |

令和元年度 事業計画

公益財団法人古紙再生促進センターは、適正かつ効率的な紙リサイクルを促進し、地球環境の保全、経済の健全なる発展及び循環型社会の形成に貢献し、公益の増進に資することを使命として、家庭、事業者、地方自治体、古紙問屋や製紙会社等関係者の支援・協力を得て、古紙品質安定対策事業、広報事業、調査研究事業及び紙の資源リサイクル事業を4つの柱として実施してまいります。

我が国においては、紙リサイクルの基本は古紙品質の維持・向上であるとして、排出先における分別の徹底・禁忌品の除去、流通段階での選別の徹底、未利用古紙の掘り起こし等を推進し、古紙回収率と古紙利用率の向上を図る一方で、紙リサイクルの安定のために古紙輸出を進めてきました。

昨今の古紙を取り巻く状況は、次のとおりとなっています。

- 平成29年度の我が国の古紙利用率は64.2%。“資源有効利用促進法”に基づく令和2年度の古紙利用率目標は65%であり、当該目標の達成はもとより継続的な古紙利用率の向上の取り組みを加速することが必要となっています。
- eコマースの進展により段ボール原紙を中心に板紙の需要が好調な反面、グラフィック系を中心に紙の需要は引き続き低迷するという需要構造の変化の中、利用率向上に必要な良質な古紙の確保が難しくなっています。
- 古紙の二大輸出地域である米国・欧州ではeコマースの進展により、段ボール原紙製造設備の新增設等が進んでおり、域内での古紙消費増から古紙輸出余力が減少する一方、中国の古紙輸入政策の変更に伴い低品質古紙は余剰となり、一部は埋め立て処理に回っています。
- 中国の2017年末からの環境保護に伴う低品質古紙の輸入規制に加え、米中貿易摩擦もあり、高品質な日本の古紙への引き合いが急増し、我が国の持続的な紙リサイクルの安定に影響が出ました。更に、中国は2018年7月に“2020年末までに固体廃棄物の輸入0を目指す”との方針を打ち出しており、今後の動向を注視していく必要があります。

以上を踏まえ、令和元年度は国内外の動向の把握や古紙品質の維持・向上、紙ごみの資源化、安定的な紙リサイクルシステムの確保等の諸課題に対応すべく、次のとおり事業を行ってまいります。

1. 古紙品質安定対策事業

古紙品質の維持向上を図るため、下記事業を実施します。特に、全国に展開する「古紙品質情報ネットワーク」の完全運用を進め、「個別品質対策」は必要に応じ、地方自治体等関係団体との連携を図ります。

(1) 古紙品質調査事業

古紙開梱組成調査を製紙メーカー協力のもと実施します。

(2) 古紙品質情報ネットワークの運用

全国展開した古紙品質情報ネットワークの完全運用を進め、製紙工場での品質トラブル情報を他社他工場、古紙問屋へ伝達するとともに古紙品質に関する情報共有を図ります。

(3) 個別古紙品質対策

4大禁忌品である「昇華転写紙」、「感熱性発泡紙」、「ロウ引き段ボール」、「臭いのついた紙」の混入防止等、禁忌品対策を実施します。一般住民への啓発など必要に応じ、地方自治体を含め関係団体との連携を図ります。

2. 広報事業

紙リサイクルの促進を図るため、未利用古紙の掘り起こし、古紙排出時の分別及び禁忌品除去の徹底等に関する事業を実施します。中でも重点事業として、地方自治体職員や未来の紙リサイクル促進を見据え小中学生を対象とした啓発事業、紙リサイクルセミナーの実施やリニューアルしたホームページを活用した情報の発信に一層力をいれて取り組みます。また、集団回収実施団体への感謝状や特別活動賞の贈呈等により紙リサイクルのさらなる普及促進に努めます。

(1) 紙リサイクル啓発事業

1) 紙リサイクル意見交換会

地方自治体との連携強化を目的に意見交換会等を実施します。

2) 紙リサイクル出前授業

未来の紙リサイクル促進を見据え、紙リサイクルに関する正しい知識や考え方を身につけてもらう事を目的に、小学校へ出向きセンター作成のテキストや紙すきキット等を活用した出前授業を行います。

3) 地域広報活動

各地域にて開催される紙リサイクルイベントへの参加等、紙リサイクルの啓発のための広報活動を実施します。

4) 紙リサイクル研修会

地方自治体等と連携し、地方自治体職員や集団回収実施団体代表者、事業者等を対象に紙リサイクルに関する研修会を開催します。

5) 紙リサイクルセミナー

毎年10月は、経済産業省を含む3R（リデュース・リユース・リサイクル）関係8省庁が3R推進月間と定めており、紙リサイクル推進のための紙リサイクルセミナーを令和元年10月30日（水）に開催します。

6) 啓発資料等の配布

一般消費者向け、事業者向けに紙リサイクル啓発のためのリーフレット等を提供し、また、国内外の紙リサイクル関連情報を掲載した会報を、業界関係者・自治体等を対象に発行します。

“古紙ハンドブック 2019”を発行します。

7) 紙リサイクルコンテスト

11回目となる「全国小中学生“紙リサイクル”コンテスト 2019」を実施し、作文・ポスターの優秀作品を選定・表彰します。文部科学大臣賞の新設を検討します。

8) 未利用古紙の掘り起こし・品質確保等の啓発

未利用古紙の掘り起こしや古紙品質維持改善のため、一般消費者向けに紙リサイクル及び古紙分別等の理解を深める情報発信ツールの制作を検討します。

(2) 紙リサイクル普及事業

1) 顕彰制度

永年にわたり古紙の回収、利用の促進に寄与する諸活動を行い、紙リサイクル推進に貢献されてきた集団回収実施団体に対し、感謝状を贈呈します。また、紙リサイクルへの貢献とともに活動の目的やその内容が素晴らしい団体に対し特別活動賞を贈呈します。さらに、紙リサイクルに永年貢献した関連団体に対し、表彰状を贈呈します。

2) グリーンマーク

古紙利用製品の認識向上及び利用拡大を図るため、グリーンマークの普及に努めます。

3. 調査研究事業

国内では未利用古紙の掘り起こし・品質確保の観点から、地方自治体における古紙関連施策の調査、新潟県においてオフィス古紙回収モデル事業を引続き実施します。また、禁忌品混入による抄紙工程への影響等の調査、リサイクル対応型機密文書処理ガイドラインの見直し、eコマースの進展による紙リサイクルへの影響等を調査します。

海外では古紙輸入地域である中国をはじめとする東南アジア諸国や古紙輸出国である米国・欧州の状況変化の実態を調査し、我が国の紙リサイクルへの影響の把握に努めます。

(1) 国内資源化調査

1) 雑誌・雑がみ・オフィス古紙調査

雑誌・雑がみ・オフィス古紙の排出・回収・利用の実態を調査し分析します。

「リサイクル対応型機密文書処理ガイドライン」は発行から5年が経過し、機密文書処理を取り巻く環境も大きく変化していることから、ガイドラインを見直し、改訂を行います。

2) 地方自治体古紙関連施策調査

全市区町村に対して、古紙関連施策についてのアンケート及びヒアリング調査を継続して実施します。

3) 新技術に対応した紙リサイクル促進に関する調査研究

リサイクル対応型印刷資材の開発状況等の調査を実施するとともに、リサイクルに対応した新技術の開発を促します。現在の古紙処理技術における禁忌品混入による抄紙工程への影響などを調査します。

4) 未利用古紙の回収ネットワーク構築（モデル事業）

未利用古紙の回収利用ネットワークを構築するため、商工会議所・商工会の協力を得て、古紙問屋・回収業者と連携し、事業所（オフィス）を対象とした資源化されずに「ごみ」として処理されている古紙を回収するモデル事業を行います。具体的には、新潟県において取り組んでいるモデル事業を継続して実施します。

5) 外部委員会

日本式脱墨法の ISO 化に向けた取り組み等を支援します。

(2) 海外市場調査

中国の古紙輸入政策やそれに伴う状況の変化を把握するため、日中古紙セミナーの開催など中国の製紙・古紙業界関係者と情報・意見交換を行います。

e コマースの進展に伴う米国の古紙事情及び中国の輸入規制への対応策等を調査し古紙の輸出動向を把握するため、一昨年に続き 2 回目の米国の製紙・古紙業界関係者との情報交換や意見交換を行います。

(3) 統計調査

国内外における古紙需給統計等を収集し取りまとめを行い公表します。

4. 紙の資源リサイクル安定化対策事業

国際化の進展が加速するなか、国内のみならず海外の古紙事情により我が国の紙リサイクルシステムへ悪影響が及ばないように対策を講じます。

アジア全体の回収率向上に向けて、関係国の紙リサイクルの実態把握及びそのための働きかけを行います。

(1) 古紙余剰対策事業

1) 紙リサイクル維持対策（備蓄事業）

紙リサイクルシステムを維持するため、余剰や不足が生じた場合の対策を講じます。

2) 備蓄実施態勢の検討

備蓄事業を実施するため、対象古紙、場所、規模及び手順等の態勢を具体的に想定または一部実施しこれに備えます。

(2) 紙の資源リサイクル安定化施策事業

1) 海外調査研究（東南アジア）

アジア全体の紙リサイクル安定化のため、東南アジア諸国等の紙リサイクルの実態と紙リサイクル安定化施策等の調査を実施し、回収率向上の働きかけを行います。

2) リサイクル方法の調査研究

古紙の製紙原料以外の用途に関する調査を実施します。

また、e コマースの進展による紙リサイクルへの影響等を、段ボール需要や回収形態を対象として調査し分析します。

5. その他の事業（地区委員会活動事業）

全国 8 地域における委員会において、各地域の独自性を考慮し、地域に応じた研修会（工場見学、講演会等）等の事業を実施します。

収支予算書（増減計算方式）

（平成31年4月1日から令和2年3月31日まで）

（単位：円）

科 目	令和元年度予算	平成30年度予算	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用益	3,000	3,000	0
基本財産受取利息	3,000	3,000	0
② 特定資産運用益	240,000	236,000	4,000
運用財産受取利息	240,000	236,000	4,000
③ 受 取 会 費	236,640,000	244,540,000	△ 7,900,000
賛助会員受取会費	236,640,000	244,540,000	△ 7,900,000
④ 事 業 収 益	136,300,000	136,300,000	0
古紙品質安定対策事業収入	0	0	0
紙の資源リサイクル安定化対策事業収入	136,300,000	136,300,000	0
⑤ 受 取 寄 付 金	425,000	563,000	△ 138,000
受 取 寄 付 金	425,000	563,000	△ 138,000
⑥ 雑 収 益	300,000	300,000	0
雑 収 入	300,000	300,000	0
経 常 収 益 計	373,908,000	381,942,000	△ 8,034,000
(2) 経常費用			
① 事 業 費	312,379,000	318,526,000	△ 6,147,000
古紙品質安定対策事業費	5,808,000	5,974,000	△ 166,000
広 報 事 業 費	79,096,000	80,818,000	△ 1,722,000
調 査 研 究 事 業 費	75,066,000	81,682,000	△ 6,616,000
紙の資源リサイクル安定化対策事業費	152,409,000	150,052,000	2,357,000
② そ の 他 事 業 費	30,092,000	28,645,000	1,447,000
地 区 委 員 会 活 動 事 業 費	30,092,000	28,645,000	1,447,000
③ 管 理 費	31,292,000	30,920,000	372,000
役 員 報 酬	1,053,000	1,053,000	0
給 料 手 当	6,719,000	6,028,000	691,000
福 利 厚 生 費	1,233,000	905,000	328,000
役 員 退 職 慰 労 費 用	114,000	114,000	0
退 職 給 付 費 用	272,000	244,000	28,000
会 場 費	126,000	147,000	△ 21,000
広 告 料	120,000	120,000	0
シ ス テ ム 費	1,216,000	1,268,000	△ 52,000
委 託 費	100,000	100,000	0
会 議 費	5,755,000	6,456,000	△ 701,000
旅 費 交 通 費	4,435,000	4,584,000	△ 149,000

科 目	令和元年度予算	平成 30 年度予算	増 減
通 信 運 搬 費	185,000	178,000	7,000
減 価 償 却 費	50,000	94,000	△ 44,000
消 耗 品 費	138,000	159,000	△ 21,000
印 刷 製 本 費	12,000	15,000	△ 3,000
新 聞 図 書 費	27,000	35,000	△ 8,000
水 道 光 熱 費	113,000	113,000	0
賃 借 料	2,640,000	2,620,000	20,000
諸 会 費	1,254,000	1,298,000	△ 44,000
諸 謝 金	4,530,000	4,521,000	9,000
租 税 公 課	115,000	20,000	95,000
支 払 手 数 料	513,000	508,000	5,000
雑 費	572,000	340,000	232,000
経 常 費 用 計	373,763,000	378,091,000	△ 4,328,000

科 目	令和元年度予算	平成 30 年度予算	増 減
当 期 経 常 増 減 額	145,000	3,851,000	△ 3,706,000
当 期 経 常 外 増 減 額	0	0	0
当 期 一 般 正 味 財 産 増 減 額	145,000	3,851,000	△ 3,706,000
一 般 正 味 財 産 期 首 残 高	2,436,016,000	2,430,860,000	5,156,000
一 般 正 味 財 産 期 末 残 高	2,436,161,000	2,434,711,000	1,450,000
Ⅱ 指 定 正 味 財 産 増 減 の 部			
当 期 指 定 正 味 財 産 増 減 額	0	0	0
指 定 正 味 財 産 期 首 残 高	0	0	0
指 定 正 味 財 産 期 末 残 高	0	0	0
Ⅲ 正 味 財 産 期 末 残 高	2,436,161,000	2,434,711,000	1,450,000

紙リサイクル出前授業の下半期実施結果

センターでは小学生を対象として紙リサイクルに関する理解を深め、紙リサイクル体制の維持・発展に資することを目的とした「紙リサイクル出前授業」を全国で実施しています。

平成30年度は下半期16校で出前授業を実施し、年間を通して53校、3,563名の児童に紙リサイクルの意義について伝えることが出来ました。

<北海道地区委員会>

北海道地区は北海道の1校で実施致しました。

実施日	実施校	クラス	講師
平成30年 11月13日	札幌市立明園小学校	5年生（2クラス）	(株) 藤川紙業、(株) マテック、北昭興業（株）、 (株) 丸升増田本店、日本製紙木材（株）、北海紙管（株）、栗原紙材（株）



【講師の感想】

- ・一学期にリサイクルの学習をされていたこともあり、紙リサイクルに対してもかなり理解がありました。
- ・児童から質問を受ける時間が不足しているように感じられたので、対話の時間を増やすよう見直しが必要と感じました。

<東北地区委員会>

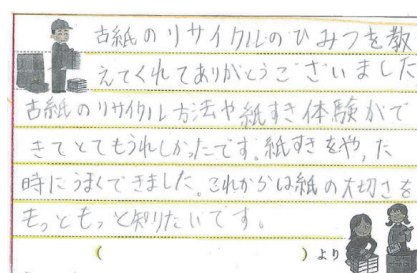
東北地区は宮城県の3校で実施致しました。

実施日	実施校	クラス	講師
平成30年 10月 4日	石巻市立稲井小学校	4年生（3クラス）	(株) 齋武商店
10月23日	石巻市立開北小学校	4年生（2クラス）	(株) 齋武商店
11月 1日	石巻市立石巻小学校	4年生（2クラス）	(株) 齋武商店

<静岡地区委員会>

静岡地区は静岡県の5校で実施致しました。

実施日	実施校	クラス	講師
平成30年 11月 1日	沼津市立浮島小学校	4年生（1クラス）	(株) 丸元紙業、こづか (株)、(株) 高野実業、(株) 二見、 (株) 市川商店、(株) 丸興佐野錦一商店、日本製紙 (株)、 (株) 日刊紙業通信社、(公財) 古紙再生促進センター
11月 2日	富士市立岩松北小学校	4年生（4クラス）	(株) 丸元紙業、(株) アカツキ、(株) スギヤマ紙業、三和商工 (株)、 渡辺商店、(株) 丸興佐野錦一商店、(株) 日刊紙業通信社、 (公財) 古紙再生促進センター
11月21日	富士市立今泉小学校	4年生（4クラス）	(株) 鈴剛、松岡紙業 (株)、三和商工 (株)、(株) 丸元紙業、 日本製紙 (株)、(株) 日刊紙業通信社、(公財) 古紙再生促進センター
11月27日	富士市立東小学校	4年生（1クラス）	(株) 丸元紙業、松岡紙業 (株)、(株) 高野実業、(株) 二見、 (株) 堤紙業、(株) 日刊紙業通信社、(公財) 古紙再生促進センター
12月13日	富士市立吉永第二小学校	4年生（1クラス）	(株) 丸元紙業、こづか (株)、(株) 二見、日本製紙 (株)、 (株) 日刊紙業通信社、(公財) 古紙再生促進センター



【実施校からの感想】

- ・クイズも入れながら楽しく分かりやすく教えていただきました。チップなどの実物もあって良かったです。
- ・〇×クイズは子どもたちにとって分かりやすく、活動しやすいものなので、子どもたちは良く考えていました。
- ・子どもたちはとても嬉しそうにはがきを持って帰り、ミキサーを買って家でもやってみたいという子もいました。子どもたちにとっていい体験となり学びが深まりました。

<中部地区委員会>

中部地区は愛知県で1校、三重県で3校、岐阜県で1校の5校で実施致しました。

実施日	実施校	クラス	講師
平成30年 10月11日	名古屋市立大清水小学校	4年生（5クラス）	(株) 宮崎
11月 1日	四日市市立桜台小学校	4年生（1クラス）	北勢商事 (株)
11月 8日	鈴鹿市立飯野小学校	4年生（3クラス）	北勢商事 (株)
11月10日	岐阜市立七郷小学校	4年生（3クラス）	グリーンリメイク (株)、(公財) 古紙再生促進センター
11月20日	桑名市立多度青葉小学校	4年生（1クラス）	北勢商事 (株)



【講師の感想】

- ・活発で積極的な生徒さんで楽しく授業を行えたと思います。
- ・紙のリサイクルについて児童に質問してみると想像以上の模範解答が出て、リサイクルに関する知識が自治体や家庭での学習で高まっているのではないかと感じました。
- ・〇×クイズを半数以上の児童が全問正解し、質問や問いかけに答えてくれる生徒が多く、非常に有意義に授業を行うことができました。

<中・四国地区委員会>

中・四国地区は山口県の1校で実施致しました。

実施日	実施校	クラス	講師
平成30年 10月11日	下松市立豊井小学校	5年生（1クラス）	日本資源流通（株）

【講師の感想】

- ・パルプに興味をもってくれたようで、古紙パルプの作成過程や木材パルプの色について質問がありました。

<九州地区委員会>

九州地区は長崎県の1校で実施致しました。

実施日	実施校	クラス	講師
平成30年 10月 5日	長与町立長与北小学校	4年生（2クラス）	（株）イワフチ、西部故紙センター（株）

【実施校からの感想】

- ・グループについて指導していただいたので、安心してはがき作りに取り組むことができました。
- ・クイズ形式で学ぶことで子どもたちもグループで考えながら学習することができました。



紙リサイクル出前授業の下半期実施結果（センター会員実施）

紙リサイクル出前授業は、センター各地区委員会が行うものとは別に、会員企業が独自に行っているものもあり、下半期は33の学校等で実施いたしましたので、ご紹介いたします。

実施日	都道府県	実施対象	講師
平成30年 10月1日	長崎県	平戸市立田平東小学校	明和製紙原料（株）
10月1日	長崎県	平戸市立田平北小学校	//
10月2日	岡山県	岡山市立福島小学校	//
10月2日	岡山県	岡山市立御野小学校	//
10月5日	岡山県	岡山医療生協	//
10月6日	島根県	安来市立島田幼稚園	（株）樋口敦郎商店
10月10日	愛知県	名古屋市立しまだ小学校	明和製紙原料（株）
10月11日	大分県	豊後高田市立真玉小学校	//
10月12日	大分県	豊後高田市立高田小学校	//
10月12日	大分県	豊後高田市立呉崎小学校	//
10月23日	広島県	呉市立白岳小学校	（株）岩本商店
10月28日	岡山県	倉敷アリオ（午前実施）	明和製紙原料（株）
10月28日	岡山県	倉敷アリオ（午後実施）	//
10月29日	兵庫県	尼崎市立尼崎北小学校	//
10月31日	大阪府	東大阪市環境局	//
11月7日	兵庫県	東播磨地域循環型社会形成会議	//
11月9日	岡山県	備前市立吉永小学校（来社）	//
11月10日	岡山県	里庄町立里庄東小学校	//
11月11日	長崎県	平戸市立田助小学校	//
11月13日	岡山県	岡山市立芳泉中学校（職場体験）	//
11月14日	岡山県	岡山県立新見高校	//
11月16日	岡山県	高野山寺族婦人会	//
11月17日	岡山県	岡山イオンチアーズ（来社）	//
11月19日	岡山県	倉敷市神亀ふれあい会館	//
11月21日	大阪府	大阪府吹田市環境局	//
12月8日	岡山県	岡山南ロータリークラブ	//
12月18日	岡山県	日本ITビジネスカレッジ	//
12月21日	岐阜県	岐阜県小牧市環境局	//
平成31年 1月25日	岡山県	高梁市立福地小学校	//
1月30日	岐阜県	可児市立桜ヶ丘小学校	//
2月16日	兵庫県	兵庫県西脇市環境局	//
2月26日	大阪府	大阪府吹田市役所	//
3月17日	岡山県	倉敷イオンチアーズ（来社）	//



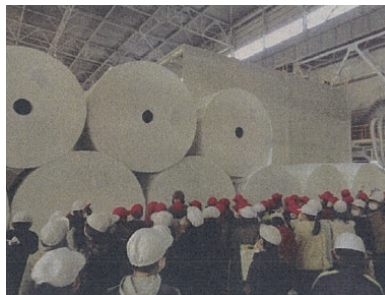
古紙リサイクルバスツアー実施報告

九州地区委員会では、次世代を担う子どもたちへの環境教育として北九州市と協力し、古紙リサイクルバスツアーを実施しています。今年度は下表の通り市内の小学校4校に参加いただきました。

学校名	実施日	人数	学年
北小倉小学校（北九州市）	平成30年11月27日（火）	17名（生徒15名、引率2名）	4年生
香月小学校（北九州市）	平成31年1月16日（水）	78名（生徒75名、引率3名）	4年生
今町小学校（北九州市）	平成31年1月18日（金）	30名（生徒28名、引率2名）	4年生
小森江西小学校（北九州市）	平成31年1月23日（水）	19名（生徒17名、引率2名）	4年生

見学は一日かけて行い、下表のスケジュールで古紙がリサイクルされる過程を学びました。

時刻	内容
9:00～	●古紙回収用保管庫見学（市民センター） 古紙が家庭からどのような形で持ち込まれているか、出し方の注意点などを市民センターの館長から説明。
9:40～	●古紙ヤードの施設見学（日本資源流通株式会社） 集められた古紙が選別される様子やバールの見学、出荷先やリサイクルに適さない「禁忌品の説明」。
11:00～	●トイレットペーパー工場施設見学（九州製紙株式会社） 回収された古紙を原料としてトイレットペーパーに再生されている製造工程ラインの見学と説明。
12:30～	●見学・体験学習（環境ミュージアム） 使用後の牛乳パックを使った紙すき体験と施設見学。



児童に行ったアンケートでは、「リサイクルできる紙は分かりましたか」の問いに84%がよく分かったと回答し、「どんな方法で紙が集められているかわかりましたか」の問いには86%がよく分かったと回答がありました。バスツアーへの参加を通して紙リサイクルへの理解が深まったのではないかと感じます。

後日学校を經由して行った保護者へのアンケートでは「リサイクルできない紙について子どもから聞いて初めて知りました。分別に役立てようと思います。」「分別についてとても詳しく勉強しており、家族にたくさん話してくれました。」「市民センターやスーパーの回収所に段ボールを持って行っていましたが、見学を終えて、これからは自分もリサイクルできるものをしっかり考えて分別して持っていく！と話してくれました。」といった感想があり、子どもの学習を通して家庭にも紙リサイクルの大切さが伝えられ、家族で紙リサイクルに取り組むきっかけになったのではないかと感じます。

第二十一回 夏先生のチャイナレポート

中米貿易摩擦による中国製紙・古紙業界への影響について

始めに

2018年7月に、アメリカが中国の知的財産権侵害などを口実に制裁関税第一弾を発動すると、中国政府も報復関税で対抗した。また、アメリカの対中国の強硬姿勢は貿易分野にとどまらず、中国の政治・外交や安全保障、人権問題なども批判し始めており、本当の狙いは「中国製造2025」の阻止だろう。

1978年のGDP総額は僅か2,683億ドルだったが、改革開放40周年を迎えた2018年のGDP総額は13.6兆ドルに達し、米国に次ぐ世界第二位の経済大国の地位（2010年に日本を抜いた）を保っている。その他に、多くの分野で世界一位となったため、アメリカを始め、イギリス、オーストラリア、ドイツ、日本など多くの先進国が「中国脅威論」を大いに宣伝し、中国の発展テンポを遅らせようとしている。恐らくこれも中米貿易摩擦の重要な原因の一つであろう。

（1）貿易摩擦が製紙・古紙業界に与えた経済的影響

中米貿易摩擦が両国の経済成長に損害をもたらしただけでなく、製紙業界や古紙業界を始め、多くの分野にも損害を与えている。当然ながら、アメリカの輸出、特に対中国輸出企業に大きな打撃を受けている（自業自得と言えよう）。

中米貿易史上に前例のない今回の摩擦が、中国製紙業界に損害を与えたのは、やはり原料方面であり、即ち古紙とパルプである。実は、中米貿易摩擦が始まる前の2017年7月に中国政府は外国からの「固体廃棄物輸入禁止」（古紙を含む）令を公布後、アメリカの67%の古紙は輸出できなくなり、米国政府はかつて何度も中国政府に「禁止令」を撤廃してほしいと要求したそうである。多分これも一つの貿易摩擦の引き金かもしれない。

1）国産古紙の価格はかつて乱高下

中国政府は2018年3月から、環境保護（青空行動という）を理由に、外国から輸入する古紙のミックス（混入物）の基準を0.5%にし、特にアメリカからの古紙に対して、100%コンテナを開けて検査するようになった。そのため、不分別・不合格の外国古紙は通関できず、そのまま原産地に返却した（約1万トン返却）。

2017年中国の古紙使用量は6,302万トンであり、うち2,063万トンは輸入古紙であった。中国の古紙回収率は48.5%、2017年の回収量は5,285万トン、前年同期比6.5%増加した。

中国は主にアメリカ、欧州、日本から古紙を輸入している。2018年11月15日までの統計によると、輸入古紙は1,861万トンで、前年同期比52.8%も減少した。急に輸入古紙を半分以上もカットされたため、2018年第三四半期の国内古紙価格はかつてトン当たり3,000元（一時的に3,800元／トン）を超えた（最低価格はトン当たり1,750元）。同時に、パルプ価格の上昇に連れて、家庭用紙の価格も大幅に上昇し（トン当たり1,500元も上昇）、国民生活に損害をもたらした。

その他に、中米貿易摩擦の影響で、中国の輸出が減少し、特に家電製品、電子製品、玩具、靴類など包装紙使用の製品は輸出の減少に伴い、使用量も大幅に減った。

2）経済的影響は僅か

中国環境戦略と政策センターの分析によると、例えば中国の税関がすべての外国古紙を「輸入禁止目録（リスト）」に入れても、中国のGDP成長に対する影響は僅か0.04%しかない。さらに、アメリカから輸入する古紙・繊維パルプ及び板紙の金額は中米貿易総額の2.82%しか占めていない。

（２）中国製紙・古紙業界の対応及び今後の展望

統計によると、毎年輸出商品（特に家電製品など段ボール包装紙使用）と共に外国へ輸出した包装用紙は少なくとも 2,000 万トンである。また、中国の 2018 年の輸出入総額は 4.62 兆ドル（輸出 2.48 兆ドル、輸入 2.14 兆ドル）であり、始めてアメリカ（約 4 兆ドル）を抜いて世界最大の輸出入貿易大国となった。

中国は毎年米国、欧州、日本を始め、多くの国々や地域から段ボールのような包装紙使用の商品を輸入している。したがって、中国の古紙の回収量も回収率ももっと高められるに違いない。

１）海外へ進出し、古紙パルプの現地生産を拡大する

中国政府の「固体廃棄物輸入禁止令」及び中米貿易摩擦は、中国の製紙企業に「経営理念、経営方式」転換のテンポを速めたと言えよう。即ち大手製紙メーカーは外国に投資して古紙パルプ工場を設立している。例えば玖龍紙業（ナイン・ドラゴン）では、NDPaper 会社（ナイン・ドラゴンの米国子会社）Fairmont パルプ工場の再生（古紙）パルプはすでに中国に輸出し始めた（Fastmarkets RISI 米国 2019 年 3 月 1 日報道）。その他に、理文製紙や山鷹製紙なども相次いで海外（アセアン諸国を中心に）に進出し、古紙パルプの生産工場を設立している。

２）製紙企業はグリーン発展を堅持する

製紙企業だけでなく、すべての企業は皆「绿水青山こそ金山銀山」（習近平語録）という発展の理念を堅持しなければならない。即ち生態文明発展の道を歩み、環境保護優先、資源節約、原材料の総合利用率をアップし、古紙回収のルートや回収率、利用率を高め、資源の循環利用を推進する。さらに、汚染減少、

廃棄物の排出を制限し、固体廃棄物の処理を強め、有効的に環境汚染と生態破壊を防止する。

３）科学技術のイノベーションを原動力とする

目下、新しい科学技術革命と産業変革の最中であり、発展方向転換の重要な段階である。製紙業界も例外ではなく、新しいパルプ技術の研究開発に力を入れて、清潔分離、膜分離、新型塗工、排水回收利用、生物精練技術の研究開発を強化する。要するに、先進的なパルプ技術と環境保護技術で製紙工業の転換を推進する。

４）設備製造能力を高める

即ち、設備の自動化、数値制御（NC）、知能化（ロボット）、情報化技術応用の速度を速め、精密管理を推進し、近代化生産方式を実現する。全面的に製紙工業の生産率をアップし、積極的に板紙、特殊（種）紙、家庭用紙、包装用紙、印刷用紙などの種類構造をより良くし、紙製品の設計レベルと生産品質を大いに高め、豊富な品種、良い品質、優秀なブランドで中国の製紙工業全体の競争力をアップする。

終わりに

1990 年代の中国の製紙工業の生産量は 3,000 万トンに満たなかったがその後、玖龍紙業、理文紙業、山鷹紙業、晨鳴紙業などのような大型製紙メーカーの増産や外資系の製紙メーカーの中国進出に伴って、生産能力は年々大幅に上昇し、2015 年に 1 億トンを突破してから、4 年連続 1 億トン（2018 年 1.16 億トン）を超えている。中国大陸の総人口は 2018 年末現在すでに 14 億人を超えた。一人当たりの紙類消費量は年々増えている。今後、紙製品の生産量も消費量もさらに増加するに違いない。

韓国の古紙統計 (2017 年)

韓国製紙連合会「KOREA PULP & PAPER INDUSTRY 2018」より、2017 年までの韓国の紙・板紙、古紙の状況を紹介する。

1. 紙・板紙

1-1. 生産

2017 年の紙・板紙生産量は、11,604 千 t（前年比 0.4% 減）であった。

品種別にみると、新聞用紙は 1,120 千 t（前年比 19.4% 減）、印刷・情報用紙は 2,742 千 t（前年比 1.3% 減）、包装用紙は 176 千 t（前年比 5.9% 減）、衛生用紙は 512 千 t（前年比 0.2% 減）、白板紙は 1,592 千 t（前年比 3.3% 増）、段ボールは 5,069 千 t（前年比 4.5% 増）、その他は 392 千 t（前年比 0.8% 増）であった。

白板紙、段ボールの生産は増加傾向であるが、新聞用紙、印刷・情報用紙は減少傾向である（表 1）。

表 1 紙・板紙品種別生産量の推移

（単位：1,000 トン）

年	合計	新聞用紙	印刷・ 情報用紙	包装用紙	衛生用紙	白板紙	段ボール	その他（注）
2011	11,481	1,537	3,278	223	462	1,348	4,157	476
2012	11,332	1,523	3,207	190	464	1,418	4,037	491
2013	11,767	1,515	3,243	204	479	1,493	4,381	453
2014	11,662	1,423	3,043	195	529	1,469	4,544	460
2015	11,569	1,334	2,920	186	468	1,524	4,677	461
2016	11,652	1,390	2,779	187	513	1,541	4,853	389
2017	11,604	1,120	2,742	176	512	1,592	5,069	392

韓国統計（韓国製紙連合会資料より）

（注 1）その他は、特殊紙とその他の板紙を足したもの（以下同じ）

（注 2）2011 年の合計数量は、品種別数量の合計と違っていたため修正した。

表 2 2017 年の紙・板紙品種別統計

（単位：1,000 トン）

	生産	出荷			在庫	輸入
		国内	輸出	合計		
新聞用紙	1,120	612	536	1,148	33	0
印刷・情報用紙	2,742	1,540	1,213	2,752	237	315
包装用紙	176	163	17	180	15	82
衛生用紙	512	467	46	513	13	64
特殊紙	138	123	9	132	30	341
紙合計	4,689	2,904	1,820	4,725	329	801
白板紙	1,592	743	820	1,563	95	153
段ボール	5,069	4,761	335	5,095	130	237
その他の板紙	254	242	10	252	24	69
板紙合計	6,915	5,745	1,165	6,910	249	459
合計	11,604	8,650	2,985	11,635	577	1,260

1-2. 輸出

2017年の紙・板紙輸出量は、2,985千t（前年比3.6%減）で、昨年から減少した。

品種別をみると、新聞用紙は536千t（前年比31.3%減）、印刷・情報用紙は1,213千t（前年比1.4%増）、白板紙は820千t（前年比4.6%増）、段ボールは335千t（前年比22.7%増）であった（表3）。

表3 紙・板紙輸出量の推移

（単位：1,000トン）

年	合計	新聞用紙	印刷・情報用紙	包装用紙	衛生用紙	白板紙	段ボール	その他
2011	2,921	679	1,299	26	4	675	217	21
2012	3,050	729	1,354	19	3	732	197	16
2013	3,259	821	1,362	23	6	764	269	14
2014	3,151	769	1,367	29	11	748	217	10
2015	3,003	748	1,217	27	5	764	232	10
2016	3,097	780	1,196	22	33	784	273	9
2017	2,985	536	1,213	17	46	820	335	18

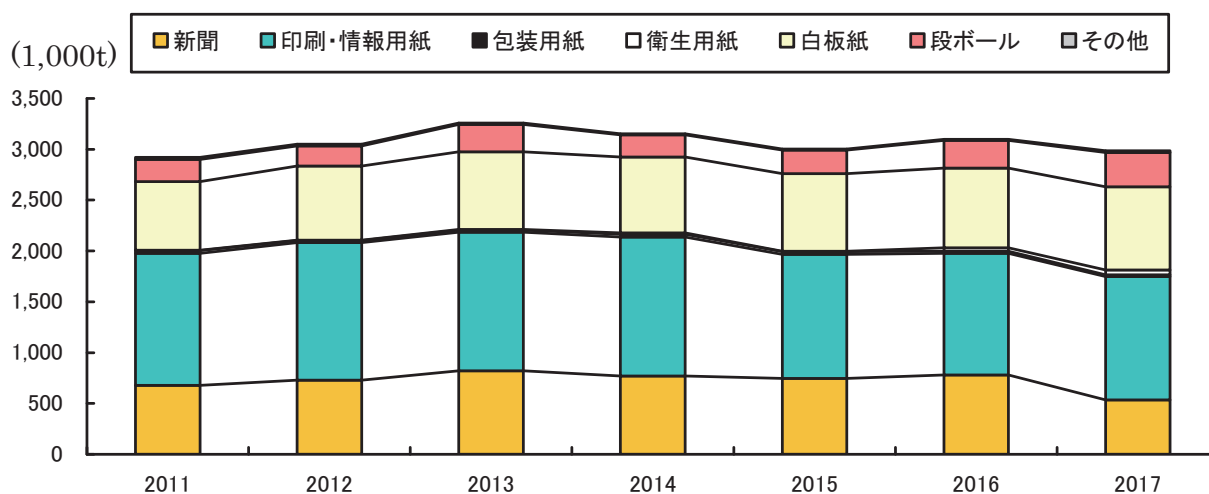


図1 紙・板紙輸出量の推移グラフ

1-3. 輸入

2017 年の紙・板紙輸入量は、1,260 千 t（前年比 0.1% 増）で、2013 年から増加傾向にある。

品種別をみると、印刷・情報用紙は 314 千 t（前年比 3.3% 増）、白板紙は 153 千 t（前年比 4.8% 増）、段ボールは 237 千 t（前年比 19.4% 減）、その他は 410 千 t（前年比 3.3% 増）であった（表 4）。

表 4 紙・板紙輸入量の推移

（単位：1,000 トン）

年	合計	新聞用紙	印刷・ 情報用紙	包装用紙	衛生用紙	白板紙	段ボール	その他
2011	899	88	258	50	8	115	172	208
2012	858	0	210	52	16	82	179	319
2013	951	0	280	42	28	101	186	314
2014	1,061	0	301	55	32	114	201	358
2015	1,080	0	298	65	36	113	198	370
2016	1,259	0	304	72	46	146	294	397
2017	1,260	0	314	82	64	153	237	410

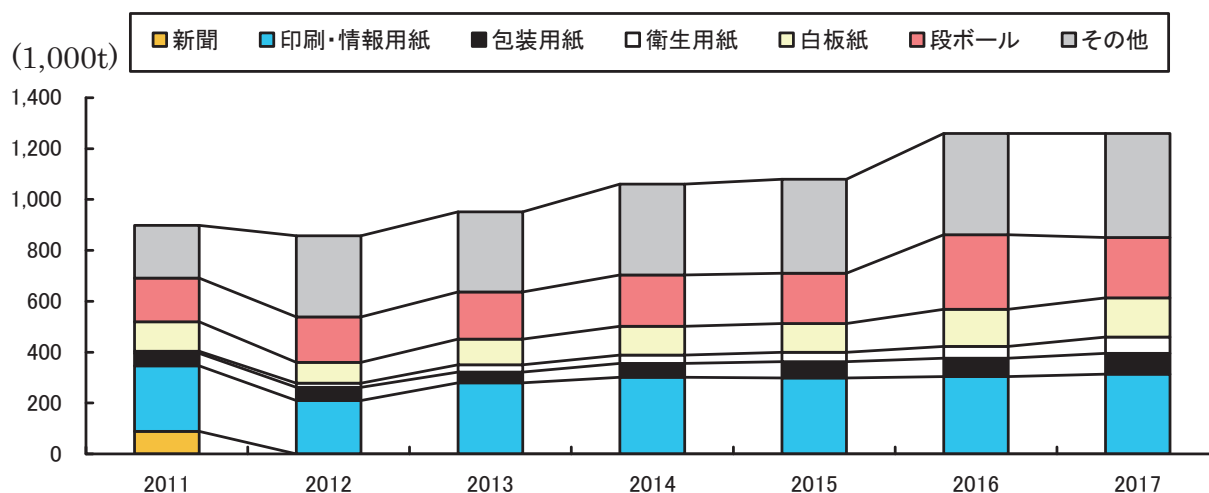


図2 紙・板紙輸入量の推移グラフ

1-4. 消費

2017年の紙・板紙消費量は9,912千t（前年比0.5%増）で、2013年から増加傾向にある。

2017年の一人当たりの紙・板紙消費量は191.4kg（前年比0.5%減）で、2015年から190kg台となっている（表5）。

表5 紙・板紙消費量等の推移

年	消費量 (1,000t)	前年比 (%)	1人当たりの 消費量 (kg/年)	前年比 (%)	人口 (千人)	前年比 (%)	GDP (十億ウォン)	前年比 (%)
2011	9,251	1.1	185.8	0.3	49,779	0.6	1,311,893	3.7
2012	9,072	-1.9	181.4	-2.4	50,004	0.5	1,341,967	2.3
2013	9,368	3.3	186.5	2.8	50,220	0.4	1,380,833	2.9
2014	9,889	5.6	196.1	5.1	50,424	0.4	1,426,972	3.3
2015	9,649	-2.4	190.6	-2.8	50,617	0.4	1,466,788	2.8
2016	9,859	2.2	192.4	0.9	51,246	1.2	1,509,755	2.9
2017	9,912	0.5	191.4	-0.5	51,779	1.0	1,555,995	3.1

（注）2012年の消費量前年比、2013年、2014年の一人当たりの消費量、2013年、2014年、2015年、2017年の一人当たりの消費量前年比を修正した。

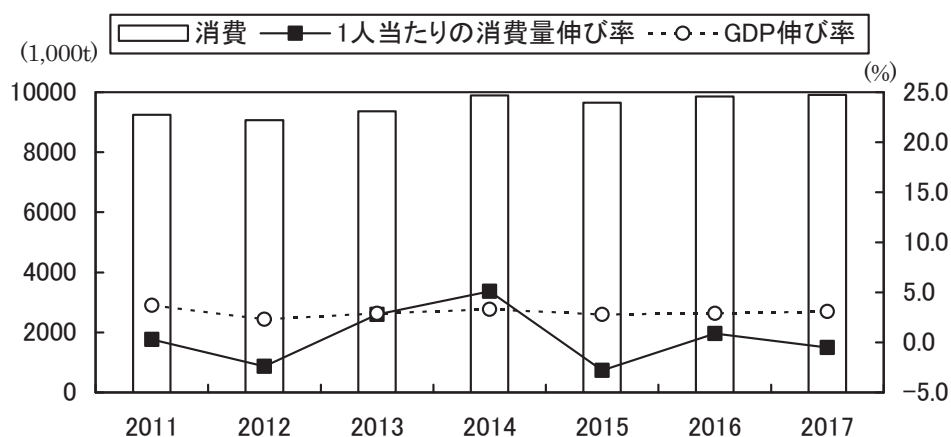


図3 紙・板紙消費量等の推移グラフ

2. 古紙

2-1. 消費

2017 年の古紙消費量は 10,025 千 t（前年比 3.0% 増）で、2016 年から 294 千 t 増加した。

2017 年の紙・板紙製品の古紙利用率は 78.5% で、2016 年から 0.2% ポイント増加した。また、古紙回収率は 92.2% で、2016 年から 2.9% ポイント増加した（表 6）。

表 6 古紙利用率及び古紙回収率の推移

（単位：1,000 トン、％）

項目	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
古紙利用率（％） （a）／（（a）＋（b））	77.7	76.9	77.8	78.9	78.0	78.3	78.5
古紙配合率（％） （a）／（d）	89.4	83.8	86.3	86.9	83.4	83.5	86.4
古紙消費量（a） （1,000 トン）	10,262	9,493	10,157	10,133	9,651	9,731	10,025
パルプ消費量（b） （1,000 トン）	2,952	2,850	2,898	2,714	2,720	2,694	2,738
紙・板紙消費量（c） （1,000 トン）	9,251	9,072	9,368	9,889	9,649	9,859	9,912
紙・板紙生産量（d） （1,000 トン）	11,481	11,332	11,767	11,662	11,569	11,652	11,604
古紙回収量（e） （1,000 トン）（注 1）	9,055	8,573	8,996	9,023	8,649	8,804	9,138
古紙回収率（％） （e）／（c）	97.9	94.5	96.0	91.2	89.6	89.3	92.2
古紙リサイクル率（％） （注 2）	94.7	87.8	92.0	87.6	86.4	84.6	89.2

（注 1） 古紙回収量 ＝ 古紙消費量 ＋ 古紙輸出量 － 古紙輸入量

（注 2） 韓国製紙連合会発表の古紙リサイクル率を記載

2-2. 輸出

2017 年の古紙輸出量は 573 千 t（前年比 9.8% 減）であった。

品種別にみると、段ボール古紙は 283 千 t（前年比 13.2% 増）、その他は 200 千 t（前年比 40.7% 減）であった（表 7）。

国別の輸出割合をみると、中国（48.9%）が最も高く、2016 年からは 14.1% ポイント減少した。次いで、インドネシア（17.3%）、台湾（12.9%）と続いた（図 4）。

表 7 古紙輸出量の推移

（単位：1,000 トン）

年	合計	新聞古紙	上質系古紙	段ボール古紙	その他
2011	324	46	14	214	50
2012	547	29	3	412	103
2013	428	25	2	205	196
2014	483	15	1	151	316
2015	540	24	25	117	374
2016	635	22	26	250	337
2017	573	41	49	283	200

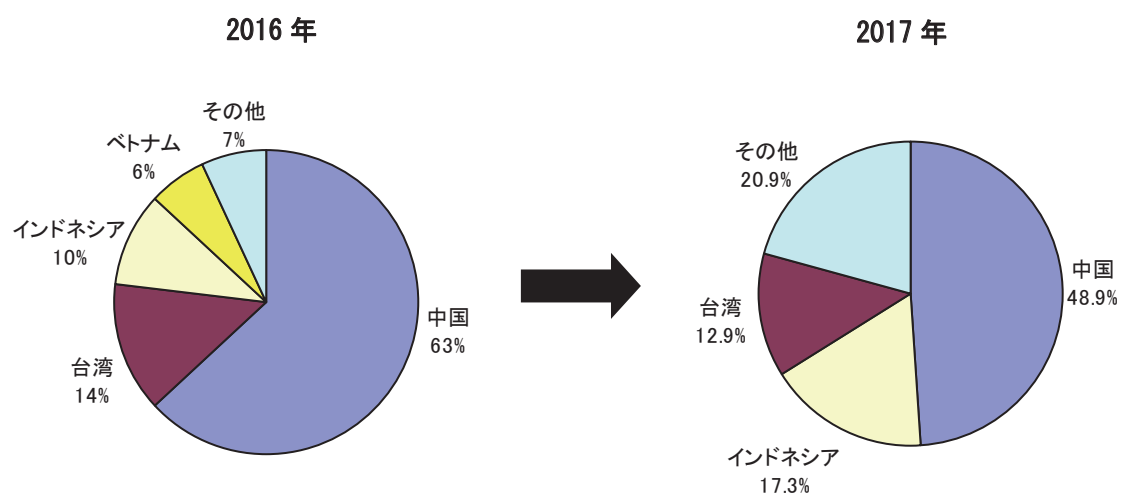


図 4 2016 年、2017 年の国別古紙輸出割合の変化

2-3. 輸入

2017 年の古紙輸入量は、1,460 千 t（前年比 6.5% 減）であった。

品種別にみると、新聞古紙は 755 千 t（前年比 20.9% 減）、上質系古紙は 170 千 t（前年比 0.6% 増）、段ボール古紙は 304 千 t（前年比 21.1% 増）、その他は 231 千 t（前年比 23.5% 増）であった（表 8）。

国別の輸入割合をみると、アメリカ（50%）が最も高く、日本（20%）が続いた。日本の割合は 2016 年とほぼ同じであった（図 5）。

表 8 古紙輸入量の推移

(単位:1,000 トン)

年	合計	新聞古紙	上質系古紙	段ボール古紙	その他
2011	1,531	1,022	168	287	54
2012	1,467	996	166	250	55
2013	1,589	981	256	270	82
2014	1,593	898	183	225	287
2015	1,542	904	188	236	214
2016	1,562	955	169	251	187
2017	1,460	755	170	304	231

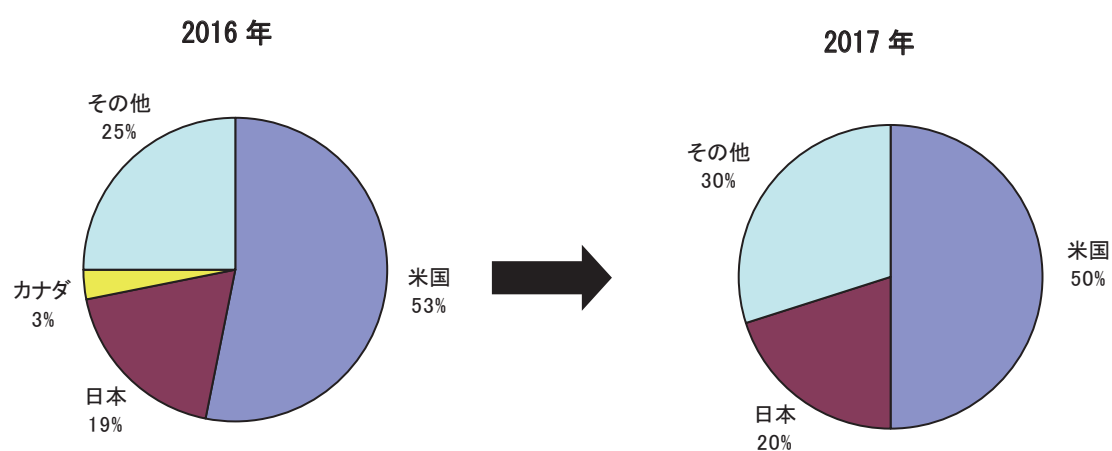


図 5 2016 年、2017 年の国別古紙輸入割合の変化

月 日	会 議 名	主 要 議 題
12月1日(土)	全国小中学生 “紙リサイクル” コンテスト 2018 表彰式 集団回収特別活動 賞表彰式	①表彰状等授与 ②受賞者挨拶 ③集団回収特別活動賞表彰状等授与 ④集団回収特別活動賞受賞者挨拶 ⑤懇親パーティー
12月5日(水)	第2回新潟分会	①古紙需給報告 ②オフィス古紙回収モデル事業について ③平成31年度事業内容等について ④集団回収感謝状贈呈式について
12月6日(木)	中・四国地区委員会	①古紙需給動向について ②古紙品質トラブル報告 ③紙リサイクル出前授業実施報告 ④集団回収感謝状贈呈進捗状況報告 ⑤2019年度事業計画・事業費について
12月12日(水)	中部地区委員会 東海分会	①古紙需給動向について ②地区委員交代の件 ③古紙品質トラブル報告 ④集団回収実施団体への感謝状贈呈について ⑤紙リサイクルコンテストの結果 ⑥古紙開梱組成品質調査の件 ⑦集団回収感謝状贈呈者の工場見学の件 ⑧その他
12月13日(木)	九州地区委員会	①古紙需給動向について ②平成30年度研修会について ③紙リサイクルバスツアー実施計画 ④平成30年度北九州市廃棄物管理責任者講習会実施報告 ⑤平成30年度集団回収特別活動賞表彰の実施報告 ⑥平成31年度集団回収実施団体への感謝状贈呈について ⑦古紙の品質トラブル報告
12月14日(金)	東北地区委員会	①業務委員会報告 ②関東地区委員会報告 ③古紙需給動向について ④その他 集団回収実施団体への感謝状贈呈式
12月21日(金)	関東地区委員会	①古紙需給動向について(古紙問屋) ②古紙及び製品需給動向(製紙会社) ③古紙品質トラブル報告 ④その他
1月9日(水)	新年互礼会	ホテルグランドパレスにて
1月17日(木)	近畿地区委員会	集団回収実施団体への感謝状贈呈式 ①古紙需給動向について ②検収委員会報告について ③その他

月 日	会 議 名	主 要 議 題
1 月 18 日 (金)	北海道地区委員会	①共販 12 月実績の報告 ②古紙の需給・市況動向について ③古紙消費実績と計画対比 ④平成 31 年 1 月～6 月古紙消費計画について ⑤北海道商組古紙仕入・出荷・在庫量調査表について ⑥古紙消費量と在庫量の推移 ⑦その他
1 月 21 日 (月)	関東地区委員会	①古紙需給動向について（古紙問屋） ②古紙及び製品需給動向（製紙会社） ③古紙の品質トラブル報告 ④通販用緩衝封筒混入によるトラブル防止に向けて ⑤2019 年 1 月～6 月の段ボール・新聞・雑誌の消費計画について ⑥その他 ・今後の関東地区委員会等の開催予定
1 月 24 日 (木)	1 月度常任理事会	①通常理事会の開催日時及び議案について ②決算報告書における正味財産増減計算書内訳表と財産目録の齟齬及び対応について（経過報告） ③欧州古紙状況調査報告 ④平成 30 年度第 8 回業務委員会議事次第について ⑤その他
	第 8 回業務委員会	①古紙の需給・市況動向について ②平成 31 年 1 月～6 月の段ボール・新聞・雑誌の消費計画について ③欧州古紙状況調査報告 ④その他
1 月 29 日 (火)	静岡地区委員会	①古紙の需給・市況動向について ②紙リサイクル出前授業の実施報告 ③全国小中学生“紙リサイクル”コンテスト 2018 の入賞作品 ④平成 31 年度事業計画（案） ・紙リサイクル出前授業の実施予定 ・静岡県工業技術研究所フェアへの参加 ・富士山紙フェアへの出展 ・地区事業について ⑤その他
2 月 8 日 (金)	財務委員会	①平成 31 年度事業計画（案）について ②平成 31 年度収支予算（案）について ③その他
	中部地区委員会 北陸分会	①古紙の需給・市況動向について ②総会の会場、日程について ③北陸分会の日程について ④紙リサイクル出前授業について ⑤新春講演会、新年互例会の報告 ⑥古紙品質トラブル報告 ⑦年度別地区別集団回収感謝状贈呈団体数一覧 ⑧紙リサイクルコンテスト 2018 応募結果 ⑨古紙開梱組成品質調査結果 ⑩欧州訪問調査（要約） ⑪日中古紙セミナー開催報告 ⑫業務委員会議事要旨 ⑬その他

月 日	会 議 名	主 要 議 題
2月13日(水)	中部地区委員会 東海分会	①古紙の需給・市況動向について ②紙リサイクル出前授業打ち合わせの件 ③新春講演会、新年互例会の報告 ④欧州訪問調査(要約) ⑤紙リサイクルコンテスト2018応募結果 ⑥業務委員会議事要旨 ⑦その他
2月14日(木)	九州地区委員会	①古紙の需給・市況動向について ②北九州市内小学生紙リサイクルバスツアー実施報告 ③佐賀市紙リサイクル研修会実施報告 ④平成30年度研修会について ⑤平成31年度九州地区行事予定 ⑥地区委員推薦について ⑦平成31年度集団回収実施団体への感謝状贈呈について ⑧古紙の品質トラブル報告 ⑨その他
2月21日(木)	関東地区委員会	①古紙需給動向について(古紙問屋) ②古紙及び製品需給動向(製紙会社) ③古紙の品質トラブル報告 ④その他 ・今後の関東地区委員会等の開催予定 集団回収感謝状贈呈式
	近畿地区委員会	①古紙の需給・市況動向について ②古紙の品質トラブル報告 ③検収委員会報告 ④その他
2月26日(火)	東北地区委員会	①古紙の需給・市況動向について ②リーフレット配布について ③平成30年度平成31年度活動計画、予算について ④その他
2月27日(水)	常任理事会	①平成31年度事業計画(案)について ②平成31年度収支予算(案)について ③集団回収実施団体への感謝状の贈呈について ④決算報告書における正味財産増減計算書内訳表の表示方法の変更について ⑤内閣府による立入検査結果概要 ⑥平成30年度第9回業務委員会議事次第について ⑦その他
	第9回業務委員会	①各地区の古紙需給・市況動向について ②集団回収実施団体への感謝状の贈呈について ③内閣府による立入検査結果概要 ④その他 ・米国からの輸出動向 ・今後の業務委員会等の開催予定

ロウ引き段ボールの混入防止リーフレットについて

輸入青果物・水産加工品などの一部にロウ引き段ボールが使用されているものがあります。

国内ではほとんど使用されていませんが、日本国外から輸入されるこれらの輸入製品と合わせて出回っています。

ロウ引き段ボールは、段ボール古紙（製紙原料）に混入すると段ボール原紙に「油じみ」が発生し、大きなトラブルとなります。

センターではロウ引き段ボールの古紙への混入を抑制するため、回収業者や事業者に対する注意喚起を促すためのリーフレットを作成しました。

リーフレットの内容は、表面にロウ引き段ボールの情報をまとめ、裏面に代表的な輸入品ロウ引き段ボールの写真を表示することで、分かりやすくなっております。

ロウ引き段ボールは必ず焼却・廃棄してください

輸入青果物・水産加工品などの一部にロウ引き段ボールが使用されているものがあります。ロウ引き段ボールは、段ボール古紙（製紙原料）に混入すると段ボール原紙に「油じみ」が発生し、大きなトラブルとなりますので、古紙には絶対に混ぜないでください。ロウ引き段ボールの見分けは、一般的な段ボールより内側の色が濃い（こげ茶色）、又は熱るとロウ（蠟）が付くかを確認すれば判別できますので、ロウ引き段ボールは焼却処理またはサーマルリサイクルするようお願いいたします。

ロウ引き段ボールと古紙品質トラブル

ロウ引き段ボールは、段ボールの防水加工の一つで、ワックス（蠟）を段ボール表面に塗布、又はワックスにどろけける加工をしています。

ロウ引き段ボールは、段ボール古紙と一緒に回収され、段ボール厚紙（ライナー）の原料に使用されると、表面に「油じみ」が現れる製品不良を引き起こします。

国内ではほとんど使用されていませんが、ロウ引き段ボールは輸入青果物・水産加工品などの一部に使用されています。

【裏面に代表的なロウ引き段ボールの写真を掲載】

＜ロウ引き段ボール＞

国内で確認している輸入品ロウ引き段ボール

- ・果物：オーストラリア産ブドウ、チリ産レモン
- ・野菜：アメリカ・メキシコ・オーストラリア産ブロッコリー、アメリカ産セロリ、オーストラリア産ニンジン
- ・水産加工品：インドネシア産冷凍エビ、冷凍カン、冷凍魚
- ・苗木：パキスタン産苗木

ロウ引き段ボールと輸入青果物・水産加工品の輸入時期

輸入青果物・水産加工品の輸入量（過去3年平均）

オーストラリア産ブドウ 2月～7月輸入時期

特に多い!! チリ産レモン 5月～11月輸入時期

要 注 意 ロウ引き段ボールは一年中出回っています

問合せ先
公益財団法人古紙再生促進センター
〒104-0042 東京都中央区入船3丁目10番9号 Tel: 03-3537-6822 <http://www.prpc.or.jp/>

(表)

輸入品ロウ引き段ボールの例

箱のデザインは年によって変わることがあります

チリ産レモン

オーストラリア産ブドウ

アメリカ・メキシコ産ブロッコリー

アメリカ産セロリ

オーストラリア産ニンジン

パキスタン産苗木

インドネシア産冷凍エビ

アジア産冷凍魚

(裏)

リーフレットが必要な方は送り先、必要枚数等を明記して当センターへFAXでお申し込みください。

※問合せ先

古紙再生促進センター業務課 吉田 Tel 03-3537-6822 Fax 03-3537-6823

◇編集後記

本号では、センターからのお知らせとして“紙リサイクル”コンテスト 2019 において『文部科学大臣賞』の新規交付が決定したことを紹介しています。これまで以上に多くの方からご応募をいただけるよう取り組んで参りますので、読者の皆様方には、お付き合いのある学校へのコンテスト応募の呼びかけなどのお力添えを賜るよう宜しくお願い申し上げます。

また、活動報告に平成 30 年度下半期の紙リサイクル出前授業実施結果を掲載しています。これにより、平成 30 年度は 53 校での実施となり、前年よりも実施校数が 8 校増加しました。講師を務めていただいた方々をはじめ、出前授業実施にご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。(武石)

地区委員会事務局

地 区	郵便番号	所 在 地	電 話 番 号 F A X 番 号
北 海 道	060-0002	札幌市中央区北二条西 2 丁目 リージェントビル 4 階	011(271)1551 011(232)0017
東 北	980-6003	仙台市青葉区中央 4-6-1 住友生命仙台中央ビル 3 階 日本紙パルプ商事(株)北日本支社内	022(225)3359 022(261)4522
関 東	104-0042	東京都中央区入船 3 丁目 10 番 9 号 新富町ビル 4 階	03(3537)6822 03(3537)6823
静 岡	417-0801	富士市大淵 2590 番 1 号 静岡県富士工業技術支援センター内	0545(35)5270 0545(35)5026
中 部	450-0002	名古屋市市中村区名駅 3 丁目 25 番 9 号 堀内ビル 7 階	052(582)1836 052(581)6943
近 畿	541-0052	大阪市中央区安土町 1 丁目 7 番 13 号 トヤマビル 7 階 日本製紙連合会関西支部内	06(6262)6315 06(6262)6316
中・四国	799-0492	四国中央市三島紙屋町 2 番 60 号 大王製紙(株)内	0896(23)9124 0896(23)4411
九 州	812-0011	福岡市博多区博多駅前 4 丁目 13 番 27 号 グランドハイツ博多 314 号	092(292)5381 092(292)5382

会報

第 45 巻 第 2 号
2019 年 4 月 18 日

発行所

公益財団法人 古紙再生促進センター

〒104-0042 東京都中央区入船 3 丁目 10 番 9 号
(新富町ビル 4 F)

電話 03 (3537) 6822 (代表)

ホームページ <http://www.prpc.or.jp>

発行人 岡 村 光 二

印刷所 株式会社サンワ

リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。